

2020年度

県役員・支部役員研修会アンケート結果

1. 日時	2020年10月9日(土)9:30~11:30
2. 場所	富山県看護研修センター 第1研修室
3. 参加者	57名 アンケート回収数 42枚
4. 内容	「看護連盟の現状と課題」 講師 富山県看護連盟会長 三谷 順子 「看護連盟の組織と役割について」 講師 日本看護連盟会長 大島 敏子

I. 属性

支部役員経験年数 0年 1名 1年 4名 2年 6名 3年 0名 4年以上 4名
県役員経験年数 0年 0名 1年 1名 2年 2名 3年 1名 4年以上 1名
①支部長 4名 ②幹事長 4名 ③幹事 8名

II 看護連盟の役割・意義について理解を深めることができましたか。

- ・会員数が少ないので、看護連盟の会員になってもらえるように働きかける。
- ・「数は力である」と言われるが、その数である会員がなかなか増えないこと。いつまでたっても課題だと思える。
- ・連盟会員を増やし、政治への関心を高めてもらう。
- ・なぜ、40代~50代の就業者が多いのに、会員は少ないのか。
- ・会員を増やすこと、20代~30代の会員が大多数を占めているため、いかにその年代の意識を高めるかが大切だと感じた。
- ・連盟会員の増員は、課題を解決していく力になると感じた。
- ・看護協会の会員と比べ看護連盟の会員はなかなか増えない。
- ・会長さんが最初に言われた「会長になったつもりで活動してください」の言葉。それは受身ではなく、自分が前に立って引っ張っていく姿勢であり、連盟会員は、協会会員の60%を目指してがんばらなくてはいけないと思った。
- ・富山県看護連盟会員数目標まであと1人。 2名
- ・三谷会長の言葉「すぐに行動することが大切」
- ・連盟の活動を具体的に会員に伝えることが大切である。
- ・自分たちの未来を創るのは私自身という気持ちで、自分を含め若い人たちに伝えていきたいと思った。
- ・「自分が連盟会長だったらどう考えるか」自分がトップの立場ならどうしたいかを考えると想いや考えが出てくると思った。3名
- ・連盟の「望」には望むという意味がある。志をひとつにして活動し、後に続く人がこの職業についてよかったと思えるようにしていきたいという言葉に共感しました。自分でできる活動をし、悪心を持ち、政治(連盟)を知っていくことと思いました。
- ・40代~50代の看護師に連盟について理解してもらう。施設でも若い年代に働きかける機会はあるが40代~50代への機会はない。定期的に働きかけをはじめようと思います。
- ・重点方針とそれをかなえるための新たな取り組みを再度理解できた。
- ・連盟役員をしているのにHPIにまだ、なじみがなく反省していました。
- ・看護連盟活動について支部14、081でがんばってきたい。
- ・看護連盟会長の講演とは違い、富山県の看護関係事業がどのように組織立てられ、計画実行されているのかわかった。2名
- ・看護師の概況が興味深かった。2名
- ・データを持って、若さんに伝えることの大切さを改めて認識した。
- ・見える活動、行動する会員、確かな組織作りのなかで、見える活動としてどのように見せればよいかというところが難しいと思っています。
- ・富山県の看護連盟会員の概況を見て、選挙に向けた活動(狙いどころ)が見えてきた。データをよく分析し、投票に結びつく様な活動をしたいと思った。
- ・あらためて支部活動を通して、連盟の役割を理解していただき、一人でも多くの会員数を増やすこと、選挙へ向かい政策へ議員を送り出すことへ働きかけていきたいと感じた。
- ・看護連盟活動のほか、国からの手当てだけでなく県議とかかわって危険手当の確保をしていく具体的な内容も知れた。感謝します。2名
- ・看護師を守るために政治が重要。
- ・選挙の大切さを会員に伝え、選挙に行ってもらうように働きかけなければならない。
- ・動ける人、発信できる人を確保する。そのために選挙に行く。それが選挙である。再度、選挙の重要性を感じました。
- ・コロナ禍における危険手当、看護大学設立に向けて、行政が動く具体的な事例が印象的だった。
- ・新型コロナでの危険手当など看護連盟・看護協会が一体となって活動され、実現に至ったことなど連盟が身近に感じるエピソードでした。

III 2020年度、自支部においてどのような取り組みを行いましたか。また、どのような取り組みが予定されていますか。

- ・看護師、介護士と共に働いている中で「看護連盟」という組織についてまったく認知されていない。少しずつ連盟の活動について話していけたらいい。
- ・なかなかできなかった。コロナ禍でありできなかった。5名
- ・他支部との合同研修会予定 8名
- ・連盟のメッセージを丁寧に伝える。
- ・ミニ研修 3名 役員会、施設内研修 2名
- ・データに基づいた発信をしていく
- ・リーダー、サブリーダーと今後の活動について確認した。
- ・今後行っていく予定 2名
- ・研修が中止になったりしているため改めて計画している。
- ・新採用者、管理職に対する施設内研修
- ・選挙へいく、行くように働きかける。
- ・連盟会員を増やすために自支部の病院や施設に挨拶に行ってきた。地区支部の研修会の案内を持って各施設にお願いに行った。なかなか連盟に入会してもらえない現状も知りました。
- ・研修が難しいなかでミニ研修という形、少人数でも集まって話をしたらよいと考え中である。企画はまだである。
- ・公的療養の幹事に協力を得て、支部便りを作成することができました。今後も継続的にしていきたい。
- ・合同研修会を年2回企画運営。今年度は施設内でも研修の場を設け、身近に看護連盟活動を知る機会とし、組織強化に働きかけている。
- ・看護部の伝達講習会に日本看護連盟のDVDを見てもらい、一人一人が連盟の会員として、政策での事業施策を理解してもらうこと、連盟が私たちのために頑張っているからこそ、連盟に参加してほしいことを伝えます。
- ・師長、副師長、新人職員に対して看護連盟について支部長が講義をした。9/123支部の合同研修会を行った。(コロナ対策をして)

*日本看護連盟「広報に関するアンケート調査」を行いましたか。

はい 26名
いいえ 9名
無回答 7名

*富山看護連盟のホームページではどのような内容に興味がありますか。

- ・活動内容の報告 青年部の活動内容
- ・スタッフの名前と顔 最新のお知らせ
- ・政治活動内容について
- ・動画など 病院、施設訪問
- ・今後しっかり見ていきたい

IV. 講演2 日本看護連盟会長 大島 敏子先生「看護連盟の組織と役割について」の講演内容から政治や政策との関連や、看護連盟の必要性について理解できましたか。

- ・看護連盟の歩みの説明を聞き、連盟の重要性がよくわかった。2名
- ・これからの看護師を守る意味でも、どこにいても安心して働ける環境を作っていく意味でも、連盟の働きはとても大切だと思いました。
- ・大変タイムリーな現状をうかがえました。何もかも政治と切り離せないのなら、少しでも我々が気持ちよく看護をできるような現場の声を発信していこうと思う。
- ・大島会長の熱意と共に政治や政策への連盟活動の歩みがよく理解できた。
- ・看護連盟の衰退や功績を知ることができた。
- ・制度がどう作られたかに関心を持ち、会員へ伝えられるようにならなければと思った。
- ・理解できた。わかりやすかった。 11名 看護と政治のつながりがよくわかった。
- ・政治の力がなくては看護は発展しない。お金も大事である。
- ・陳情や嘆願の繰り返しでは、看護問題の解決につながらない。看護職の代表を国政に送り、協会と連盟が一体となって組織的な支援をしていくことが大事。
- ・大島会長のパワーがすごくて心惹かれました。全ての言葉が残っています。
- ・「届け、看護の声を」私たちの未来へ「取り巻く環境問題は、労働環境や教育環境など、様々なものが挙げられる。看護職の力で解決すべきであり、政治の力が必要で、力を借りていくことが大事である。
- ・理解できた。わかりやすかった。 9名 連盟の大切さがよくわかった。
- ・熱意が伝わった。元気をもらえる講演でした。
- ・現在自分が看護師として働いているのは看護連盟の活動のおかげである。
- ・看護連盟の歩みがとてもわかりやすかった。大島先生の歩みと共に話されて具体的に、ただ冊子を見ているよりも大変よく理解できた。
- ・看護連盟に守られているのがよくわかった。 3名
- ・楽しい講演でわかりやすく聞くことができた。政治のことは苦手ですが必要性について理解できた。
- ・政治の力がなくては看護は発展しない。お金も大事である。
- ・連盟と協会の組織の違いを歴史を振り返り、理解でき看護の声を政策につなげる具体的な場面を知ることができた。
- ・看護職の地位を守るための連盟の必要性が理解できた。
- ・政治が動かなければ、医療・看護の現場の改善も活動するものも成り立たないと思いました。
- ・大島会長の人間性に魅力を感じた。看護の社会的価値を高める必要性を知らされた。2名
- ・政治に興味を持っていない「ヒスとレア」の人たちに具体的に説明し、理解を深めたいと思います。
- ・看護・医療の現場の労働環境を向上するためには、現場の声を政治に伝えることが大切だとわかった。
- ・看護の現状、問題を解決するためには政策として取り組むことで実現する。
- ・連盟の実績について改めて知ることができた。国民の1人、看護師の1人として政治や政策について受身ではいけないと思いました。
- ・パワフルな講演でした。熱意を持って活動できたと感じました。
- ・人に伝える時のポイントや大事なことについて支部長としてもっと学びを深め、興味を持つことの大切さを感じた。
- ・連盟の実績について改めて知ることができた。国民の1人、看護師の1人として政治や政策について受身ではいけないと思いました。

V. リーダー、サプリーダーが活動する上でどのように連携を行っていますか。また、どのような活動を期待しますか。

- ・年1回のミニ研修の開催
- ・公的な病院は自分でなかなか介入しにくい。公的病院の幹事に協力してもらい活動してもらう。
- ・研修などの企画運営への協力体制や情報共有により、連携を図っている。
- ・選挙活動の参加と看護職員への働きかけ、連盟会員の増加
- ・選挙へ行くことの大切さを、自立して会員へ伝えることができるようになってほしい。
- ・施設が遠うのでラインなどを活用して連携をとるようにしています。
- ・研修や役員会の内容を支部役員会で共有し、各施設のリーダー、サプリーダーに届けられるようにしています。
- ・コロナもあり現在は行っていない。
- ・もう少し理解に時間がほしい。
- ・今以上に関心を持って活動にかかわってほしい。
- ・政治との関わりが重要なことを伝えていく。
- ・未来を届けることにつながるよう小さな課題から伝えていきたい。
- ・職場の人に情報を伝える時にリーダー、サプリーダーの方にも協力してもらい、多くの人に伝えてもらっている。
- ・連盟に対する正しい理解の浸透
- ・一人ひとりが投票に行く。会議や休憩中に投票をする必要性を伝える。
- ・日常の業務が先行してなかなか連携までいっていない。今後の課題だと思う。
- ・休憩時間や仕事の合間に直接コミュニケーションを図り、連携をとっている。
- ・自分のことだけでなく、看護師の1人として、今の自分たちが未来にできることを考え、情報を得て伝達できる活動を期待します。
- ・施設にリーダー、部署にサプリーダーが部署長に連絡し、連携をとっている。
- ・原書きとして、「看護連盟の〇〇」と覚えてもらいたい。
- ・会員の政治活動への偏見や抵抗を減らすことを期待する。
- ・役員会でリーダー、サプリーダーの役割、連盟の役割について知ってもらう。研修会への参加
- ・会長の情熱を少しでも伝えられるといいなと思いました。
- ・リーダーまではすぐ連絡、連携が取れるよう連絡網を作成しているが、サプリーダーまでは行き届いていないのが現状です。

VI. 看護連盟では、皆様方から「現場の声」を聞かせていただき、今後の活動に繋げていきたいと考えています。

- (現場で起きている問題など、具体的に記載してください)
- ・看護師不足 3名 看護職員が募集定員に満たない
- ・休職がとりにくい 2名 休みを取ったときに不足分のスタッフの補充がされない。
- ・夜勤回数が増えている(人員不足)肉体的に疲弊している
- ・時短勤務者が増加して夜勤者が不足
- ・結婚、出産後も働き続けられる環境は整ってきているが、フル勤務者の負担が大きい
- ・「給料が安い」と退職を希望しているシングルマザーの看護師がいる。何か手当てがないのか。賃金を理由にされると、現場では止めようがなく、とても残念に思う。
- ・病院が赤字ということで、看護師が増やせない現状にあります。赤字となっていくようにするために診療報酬をもっと考えてほしい。
- ・看護必要度をもっと案につけられるようになってほしい。
- ・なぜ40代～50代の連盟会員が少ないのか、看護師は中堅層の基本給がなかなか上がりません。現場の声をと揚げられていますがもう定年前、あきらめやあまり変わらない現状にもう、いいわとなっていると思われます。【その声が多いです】
- ・地域医療、オレンジプランは国の考え(厚生労働省)。実際の一般人の思いは、医療施設で入院や入所することで安心している人が多い。それに対する対応や個人の意志を尊重する医療のあり方。
- ・手術や治療をすすめていく医師の圧力
- ・当院の連盟会員が少ない。どのように理解してもらって会員になってもらうかが悩みです。
- ・連盟の会費が高く、入会しない方が多い。
- ・連盟に対する正しい理解の浸透
- ・政治活動に消極的・否定的な発言が聞かれる。
- ・患者の高齢化が進んでおり、ひとつひとつに手がかかる。
- ・加算が取れるからといって記録物、書類が多すぎます。特に入院時の書類や記録は多く時間がかかりすぎています。
- ・緊急入院の多い病院ではどうしても時間外になってしまいます。
- ・時短勤務者が増加して夜勤者が不足
- ・看護補助者の応募がない。
- ・毎回の夜勤スタッフの増員
- ・サービス残業
- ・委員会の個人負担
- ・防護具等の不足